

下市町

地域経済の循環推進と安心して働けるまちづくり



1 雇用の場の確保に関する課題及び基本的な考え方

- ① 当町の主要産業は農業・林業・商工業と木工品。
- ② 木工品は、町の大半を占める森林資源を活用した割箸、三宝、神具等であり伝統的な産業であるために機械化が遅れ、安価な輸入品の製品が増加して価格が低下。
- ③ 農林業については、価格の低迷、生産コストの上昇、従事者の減少や高齢化などから荒廃する農地や山林も年々増加。
- ④ 商業についても、人口や商店数の減少により町内での購買力が低下しており、日常生活品の購入も不便であり、近隣の大型スーパーに購入需要を奪われ地元小売事業の売上は年々減少。
- ⑤ 基本的には、農・林・商工業といった、第1次産業に関わる従事者の減少を抑えることは困難だが、雇用の場の維持・拡大を図るため、後継者育成、企業誘致、民間の活用、販売場所の確保、多様な働き方の支援等の色々な取組によって、現状の町内事業所や従事者を維持していく。

2 取組の概要

地域産業の振興による地域創造及び雇用の場の増加を推進するために、下記の取組を推進。

- 農林業に興味のある方や就農希望者に対して体験研修の場の提供。
- 町内飲食物販売等の施設の確保、販売所の売り上げ向上のプロモーションと共に新規のブランドの構築。
- ふるさと寄附金の返礼品の充実、企業、民間事業者へのプロモーション等により、町への寄附・投資の増加を図り、地域商品の流通促進と町への資金の流れを強化。
- 金融機関との連携による町内で頑張る企業が柔軟な資金調達が出来る支援。
- 大学生等の学生を対象として町内の就業体験等の機会を設定して人材確保の実施。
- リモートワーク、コワーキング、ワーケーション、サテライトオフィスなどを活用した多様な働き方の創生。

3 取組の効果 または 苦労した点や今後の課題

- 「海のない県奈良県下市町」において、平成29年3月に「バナメイエビ」の養殖業が起業。
- 町としても、大立山まつりでこの養殖エビを使った鍋を考案すると共に各種プロモーションを行ったり、町内の飲食店等で下市で育ったエビを使用した新メニュー等を考案して販売してもらっており、新たな雇用を創出。
- 現在、コロナ禍で厳しい状況ではあるが、今後、町民のひとりでも多くの方が働く事が出来る雇用の場となったり、この事業が地域の活性化に繋がればと思っています。

詳しくは 下市町ホームページ <https://www.town.shimoichi.lg.jp/>